



平成31年1月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年12月14日

上場会社名 オーエス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9637 URL <http://www.osgroup.co.jp>
 代表者(役職名) 取締役社長 (氏名) 高橋 秀一郎
 問合せ先責任者(役職名) 経理部長 (氏名) 森口 武士 (TEL) 06-6361-3554
 四半期報告書提出予定日 平成30年12月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年1月期第3四半期の連結業績(平成30年2月1日~平成30年10月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年1月期第3四半期	5,459	△14.6	548	△0.4	517	14.4	351	△13.5
30年1月期第3四半期	6,393	15.2	551	△15.5	452	△18.7	406	△3.4

(注) 包括利益 31年1月期第3四半期 337百万円(△21.2%) 30年1月期第3四半期 427百万円(△13.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年1月期第3四半期	111.08	—
30年1月期第3四半期	128.42	—

当社は、平成29年8月1日を効力発生日として普通株式5株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年1月期第3四半期	30,274	9,925	32.8
30年1月期	29,986	9,667	32.2

(参考) 自己資本 31年1月期第3四半期 9,924百万円 30年1月期 9,667百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年1月期	—	2.50	—	12.50	—
31年1月期	—	12.50	—	—	—
31年1月期(予想)	—	—	—	12.50	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

※当社は、平成29年8月1日を効力発生日として普通株式5株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。平成30年1月期の1株当たり期末配当金につきましては、当該株式併合後の金額を記載し、年間配当金合計は「—」として記載しております。なお、株式併合後の基準で換算した平成30年1月期の1株当たり年間配当金は25円となります。

3. 平成31年1月期の連結業績予想(平成30年2月1日~平成31年1月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,400	△3.0	710	10.2	610	3.8	410	△14.9	129.48

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、 除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年1月期3Q	3,200,000株	30年1月期	3,200,000株
② 期末自己株式数	31年1月期3Q	34,036株	30年1月期	33,971株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	31年1月期3Q	3,165,983株	30年1月期3Q	3,166,594株

当社は、平成29年8月1日を効力発生日として普通株式5株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成30年2月1日～平成30年10月31日）におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善が継続し、緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、通商問題をはじめとする海外経済の不確実性や金融資本市場の変動による影響も懸念され、先行き不透明な状況が続いております。

このような経済環境のなか、当社グループは、中期経営計画の最終年度として、安定した経営・財務基盤を実現するべく取り組んでまいりました。

当第3四半期連結累計期間の成績は、売上高は5,459,024千円と前年同期に比べ934,415千円（14.6%）の減収となり、営業利益は548,769千円と前年同期に比べ2,334千円の減益、経常利益は517,927千円と前年同期に比べ65,377千円の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は351,668千円と、前年同期に比べ54,994千円の減益となりました。

経営成績をセグメント別で見ると次のとおりであります。

(映画事業)

映画事業におきましては、邦画作品では「映画ドラえもん のび太の宝島」「名探偵コナン ゼロの執行人」「劇場版コード・ブルー -ドクターヘリ緊急救命-」、洋画作品では「グレイテスト・ショーマン」「インクレディブル・ファミリー」「ジュラシック・ワールド/炎の王国」などの話題作を上映いたしました。

また、本年2月、「OSシネマズ神戸ハーバーランド」のロビースペースを改装し、「スクリーン10」をオープンした結果、より多彩な番組編成が可能となりました。さらには、直営映画館において、人気作品の出演者が登壇する舞台挨拶を実施し話題づくりに努めるとともに、演劇公演やコンサートなど多種多様なコンテンツのライブ中継や活弁士とピアニストによる活弁上演会の定期公演を実施するなど、新たな顧客の開拓に取り組んでまいりました。

売上高は2,242,311千円と前年同期に比べ96,930千円（4.1%）の減収となり、セグメント利益（営業利益）は158,362千円と前年同期に比べ49,463千円の減益となりました。

(不動産賃貸・販売事業)

不動産賃貸業界におけるオフィスビル市況は、海外経済の不確実性や相次いだ自然災害の影響を受けながらも、雇用・所得環境の改善や好調な企業収益を背景に、堅調に推移いたしました。東京都心5区では、新築ビルがおおむね高稼働で竣工したこともあり空室率は低下し、賃料水準につきましても上昇基調が継続しております。一方、大阪ビジネス地区におきましては、梅田地区を中心とした高いオフィスビル需要を背景に空室率は低水準で推移し、賃料水準は緩やかな上昇を続けております。

このような状況のなか、不動産賃貸事業におきましては、「OSビル」低層階用空調熱源機器更新工事等を実施し、快適な環境づくりを行うとともに、資産価値の向上に努めてまいりました。

また、「OSビル」1階都島通り沿いにおいて改修工事を行い、街の賑わいと憩いの空間を提供する「OS広場」をオープンし、企業プロモーションイベントなどの誘致による新たな収益構造の確立にも取り組んでまいりました。当第3四半期連結累計期間末における直接保有ビルの稼働率は100%と満室稼働となりました。

なお、本年9月、東京都中央区日本橋浜町に事業用賃貸マンション「メルヴェーユ日本橋浜町」を取得し、収益に寄与しております。

不動産販売業界における分譲マンション市況は、依然として用地代や建築費の高騰により販売価格は高止まりの状況にあるものの、住宅ローン減税や低金利等により住宅取得にとって好環境が継続しております。

このような状況のなか、不動産販売事業におきましては、本年9月に竣工した分譲マンション「プレージア逆瀬川宝梅 ザ・レジデンス」（宝塚市）の売上を計上しており、早期完売に向け販売活動に注力しております。また、分譲マンション「プレージア西田辺」（大阪市阿倍野区）につきましても、来年1月の竣工に向け、鋭意取り組んでまいりました。

分譲マンションの販売戸数が前年同期を下回ったことなどにより、売上高は2,546,484千円と前年同期に比べ810,848千円（24.2%）の減収となりましたが、前年同期に計上した棚卸資産評価損による影響もあり、セグメント利益（営業利益）は858,838千円と前年同期に比べ71,775千円の増益となりました。

なお、本年9月、東京都文京区白山二丁目に販売用不動産として収益マンションを取得しております。

(飲食事業)

飲食業界は、個人消費に持ち直しの動きが見られるものの、食材価格の高騰や人件費の上昇など、依然として厳しい経営環境が継続しております。

このような状況のなか、飲食事業におきましては、営業基盤の強化を図るため、本年3月、神戸市中央区に「串かつおおえす 三宮2号店」を、本年9月、神戸市兵庫区に「餃子ノ酒場おおえす メトロこうべ店」をオープンいたしました。また、既存店舗におきましては、運営の効率化を推進し経費削減に取り組んでまいりました。

売上高は270,421千円と前年同期に比べ5,655千円(2.1%)の増収となりましたが、新規出店費用の増加もあり、セグメント利益(営業利益)は7,247千円と前年同期に比べ13,658千円の減益となりました。

(その他事業)

その他事業におきましては、アミューズメント施設「namco三宮店」の売上を計上しております。

売上高は399,806千円と前年同期に比べ32,291千円(7.5%)の減収となり、セグメント利益(営業利益)は69,734千円と前年同期に比べ10,011千円の減益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の財政状態につきましては、前連結会計年度末と比較して総資産は287,305千円の増加となりました。これは主に現金及び預金1,383,696千円の減少がありましたが、有形固定資産790,574千円、販売用不動産733,743千円の増加によるものであります。

負債につきましては29,608千円の増加となりました。これは主に短期借入金555,080千円、未払法人税等289,655千円の減少がありましたが、長期借入金913,520千円の増加によるものであります。

純資産につきましては257,696千円の増加となりました。これは主に利益剰余金272,519千円の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年1月期の連結業績予想につきましては、平成30年3月16日の決算短信で発表しました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,968,335	1,584,638
売掛金	232,028	214,664
販売用不動産	1,845,365	2,579,109
商品	9,842	9,195
貯蔵品	3,560	2,441
前払費用	81,589	104,057
繰延税金資産	35,395	35,240
その他	67,476	262,542
貸倒引当金	△7,383	△7,383
流動資産合計	5,236,210	4,784,506
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	18,272,355	19,035,087
減価償却累計額	△10,130,480	△10,475,973
建物及び構築物(純額)	8,141,875	8,559,114
機械装置及び運搬具	270,371	280,777
減価償却累計額	△142,024	△160,109
機械装置及び運搬具(純額)	128,347	120,668
工具、器具及び備品	685,314	725,787
減価償却累計額	△555,936	△595,171
工具、器具及び備品(純額)	129,378	130,616
土地	12,385,115	12,895,462
信託建物	584,098	589,273
減価償却累計額	△102,761	△130,615
信託建物(純額)	481,336	458,657
信託土地	1,812,608	1,812,608
建設仮勘定	107,892	-
有形固定資産合計	23,186,552	23,977,127
無形固定資産		
ソフトウェア	57,481	49,702
その他	310	776
無形固定資産合計	57,792	50,478
投資その他の資産		
投資有価証券	400,514	379,343
長期前払費用	107,089	117,825
差入保証金	629,109	633,052
建設協力金	336,937	305,538
繰延税金資産	16,285	12,662
その他	8,420	8,420
投資その他の資産合計	1,498,357	1,456,842
固定資産合計	24,742,702	25,484,448
繰延資産		
社債発行費	7,904	5,166
繰延資産合計	7,904	5,166
資産合計	29,986,816	30,274,121

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年10月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	208,653	221,224
短期借入金	3,550,910	2,995,830
未払金	67,782	39,055
未払費用	244,990	247,878
未払法人税等	319,022	29,367
未払消費税等	163,357	12,218
賞与引当金	29,752	68,949
その他	227,412	317,756
流動負債合計	4,811,883	3,932,281
固定負債		
社債	1,000,000	1,000,000
長期借入金	9,562,380	10,475,900
長期預り保証金	1,954,467	1,961,683
繰延税金負債	929,017	906,746
再評価に係る繰延税金負債	1,674,048	1,674,048
退職給付に係る負債	387,053	397,798
固定負債合計	15,506,966	16,416,176
負債合計	20,318,849	20,348,458
純資産の部		
株主資本		
資本金	800,000	800,000
資本剰余金	66,507	66,507
利益剰余金	5,979,316	6,251,835
自己株式	△106,010	△106,236
株主資本合計	6,739,813	7,012,106
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	136,390	121,793
土地再評価差額金	2,791,763	2,791,763
その他の包括利益累計額合計	2,928,153	2,913,557
純資産合計	9,667,966	9,925,663
負債純資産合計	29,986,816	30,274,121

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年10月31日)
売上高	6,393,440	5,459,024
売上原価	5,231,597	4,293,423
売上総利益	1,161,842	1,165,601
一般管理費	610,738	616,832
営業利益	551,103	548,769
営業外収益		
受取利息	7,238	6,400
受取配当金	3,877	2,514
受取保険金	141	38,918
その他	2,721	3,003
営業外収益合計	13,977	50,836
営業外費用		
支払利息	96,621	74,132
その他	15,909	7,546
営業外費用合計	112,530	81,678
経常利益	452,550	517,927
特別利益		
補助金収入	-	10,000
固定資産売却益	139,015	-
特別利益合計	139,015	10,000
特別損失		
固定資産圧縮損	-	10,000
固定資産除却損	94	3,832
特別損失合計	94	13,832
税金等調整前四半期純利益	591,471	514,095
法人税、住民税及び事業税	395,162	174,483
法人税等調整額	△210,354	△12,056
法人税等合計	184,808	162,426
四半期純利益	406,663	351,668
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	406,663	351,668

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年10月31日)
四半期純利益	406,663	351,668
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	21,316	△14,596
その他の包括利益合計	21,316	△14,596
四半期包括利益	427,979	337,072
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	427,979	337,072
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成29年2月1日 至 平成29年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	映画事業	不動産賃貸 ・販売事業	飲食事業	その他事業	計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額(注2)
売上高							
(1) 外部顧客への 売上高	2,339,242	3,357,333	264,766	432,097	6,393,440	—	6,393,440
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	34,127	—	—	34,127	△34,127	—
計	2,339,242	3,391,460	264,766	432,097	6,427,567	△34,127	6,393,440
セグメント利益	207,825	787,063	20,906	79,745	1,095,542	△544,438	551,103

(注) 1. セグメント利益の調整額△544,438千円には、セグメント間取引消去△2,818千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△541,620千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成30年2月1日 至 平成30年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	映画事業	不動産賃貸 ・販売事業	飲食事業	その他事業	計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額(注2)
売上高							
(1) 外部顧客への 売上高	2,242,311	2,546,484	270,421	399,806	5,459,024	—	5,459,024
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	72,439	—	—	72,439	△72,439	—
計	2,242,311	2,618,924	270,421	399,806	5,531,463	△72,439	5,459,024
セグメント利益	158,362	858,838	7,247	69,734	1,094,183	△545,414	548,769

(注) 1. セグメント利益の調整額△545,414千円には、セグメント間取引消去△3,218千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△542,195千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。